

病害虫発生予察情報予報第7号（10月の予報）

佐賀県

目次

1. 10月の病害虫	1
2. 気象概要	2
3. 予報の内容・根拠等について	2
4. 10月の予報	
<u>普通作物</u> （水稲、大豆）	3
<u>果樹</u> （カンキツ）	6
<u>野菜</u> （イチゴ、ナス、キュウリ、アスパラガス、野菜類共通）	11
<u>花き</u> （キク）	23
5. <u>病害虫等診断依頼状況</u>	26
6. <u>全国・佐賀県で多発生している病害虫及び新たに発生した病害虫</u>	27
7. <u>農薬の適正使用について</u>	28

今月のトピックス

トビイロウンカの注意報を公表しています。発生状況を必ず調査し、発生が多い圃場では早急に防除を実施してください。また、イチゴうどんこ病が多発生しています。果実での発生を防ぐため、薬剤防除を実施してください。

1. 10月の病害虫（予報で対象とした病害虫の中から抜粋）



水稲のトビイロウンカ



イチゴのうどんこ病



アスパラガスの褐斑病



ヒノキに寄生するチャバネアオカメムシ

連絡先：佐賀県農業技術防除センター 病害虫防除部
〒840-2205 佐賀市川副町南里1088
TEL (0952)45-8153 FAX (0952)45-5085

2. 気象概要

【3ヶ月予報 平成26年9月24日 福岡管区気象台発表】

10月 天気は数日の周期で変わり、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。気温は、平年並または高い確率ともに40%です。

各病害虫の「予報の根拠」として、上記の向こう1か月の気象予報からみた病害虫の発生条件を必要に応じて記載しています。

上記の気象予報（確率予報）の内容について、本文中では便宜上、「気温やや高」、「降水量並」と簡略的に表現しています。

10月の要素別確率(%)

要素	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
気温	20	40	40
降水量	30	40	30

【参考】

要素	平年値 (佐賀市)	平年差(比)の平年並の範囲 (九州北部地方)
10月の平均気温	18.6℃	-0.5℃ ~ +0.6℃
10月の降水量	75.5mm	54% ~ 127%

3. 予報の内容・根拠等について

病害虫の発生量（平年比）

○予報の発生量は平年（佐賀県の過去10年間）及び参考として前年との比較で、「少、やや少、並、やや多、多」の5段階で示しています。

○留意点として、平年値との比較であるため、平年値が低い病害虫は、「平年より多い」場合でも見かけの発生は多くないことがあります。一方、発生が毎年目立ち、平年値が高い病害虫は、「平年並」や「平年よりやや少ない」場合でも見かけ上は多いと感ずることがあります。

予報の根拠

○予報の根拠には、巡回調査、防除員の調査、予察灯・トラップでの誘殺状況調査等に基づく発生状況、気象予報からみた病害虫の発生条件を必要に応じて記載しています。

○それぞれの条件は、少発生（－）、やや少発生（－～±）、並発生（±）、やや多発生（±～＋）、多発生（＋）として示し、＋－を総合的に判断して発生量を予想しています。

写真

○1ページ目には、予報で対象とした病害虫の写真を抜粋して掲載しています。

○3ページ目以降には、巡回調査時の各作物の生育状況の写真を掲載しています。

4. 10月の予報

普通作物

【概要】

作物名	病虫害名	発生量		病虫害防除のてびきの記載ページ	備考
		平年比	前年比		
水稲	トビイロウンカ	やや多	やや少	153～157	平成26年9月22日付け注意報第6号参照
大豆	ハスモンヨトウ	並	並	204～205、210～212	
	カメムシ類	並	並	205～206、212～214	

【特記事項】

[水稲]

- トビイロウンカの被害（坪枯れ）が県内の一部の圃場でみられている。発生状況を必ず調査し、発生が多い圃場では早急に防除を実施する（[平成26年9月22日付け注意報第6号参照](#)）。
- モチ品種や葉色の濃い圃場では、コブノメイガによる被害が多くなるので、発生状況を確認し、防除を行う。

[大豆]

- 紫斑病については、若莢期～子実肥大中期に防除を実施する。
- 県内各地でアブラムシ類が多発生している。各圃場での発生状況を確認し、発生が多い圃場では防除を行う。

水稲（普通期水稲）

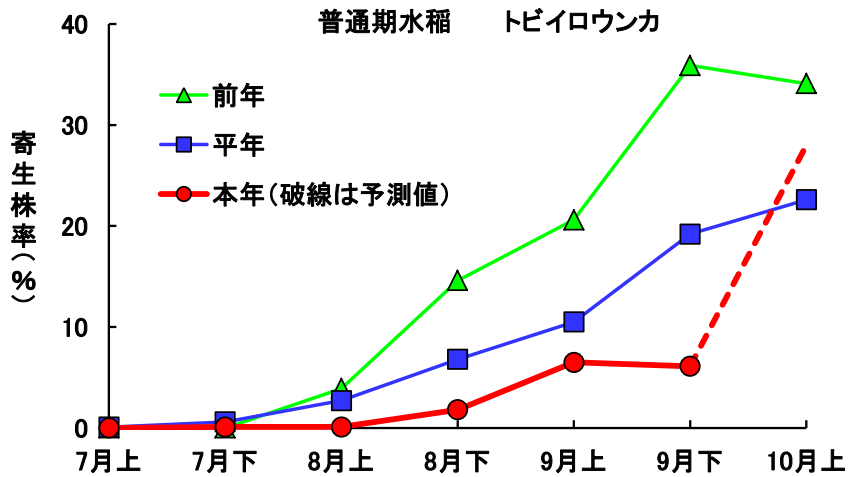
（巡回調査日：9月16～17日）



巡回調査時の生育状況

1. トビイロウンカ

- 予報の内容
発生量：平年よりやや多い（前年よりやや少ない）
- 予報の根拠
 - 巡回調査では、寄生株率6.1%（平年19.2%、前年35.9%）であり、平年よりやや少なく前年より少ない。〈－～±〉
 - 県内の一部圃場で本虫による坪枯れや株の黄化がみられている。〈±～＋〉
 - 気象予報では、やや多発生の条件となっている。〈±～＋〉（気温やや高：±～＋）
- 防除上注意すべき事項
 - 発生状況を必ず調査し、発生が多い圃場では早急に防除を実施する。
 - 農薬の使用基準（収穫前日数等）を遵守する。また、周辺環境に十分配慮し、ミツバチを含む周辺動植物へ影響がないよう注意する。



大豆

(巡回調査日：9月16～17日)



巡回調査時の生育状況

1. ハスモンヨトウ

1) 予報の内容

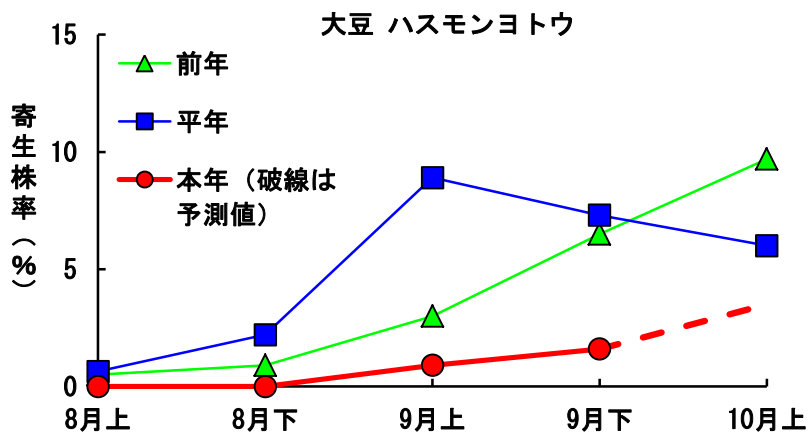
発生量：平年並 (前年並)

2) 予報の根拠

- (1) 巡回調査では、寄生株率1.6% (平年7.3%、前年6.5%) であり、平年及び前年よりやや少ない。〈-~±〉
- (2) 県内9地点のフェロモントラップでの誘殺数は平年よりやや少なく推移している (図1)。〈-~±〉
- (3) 気象予報では、やや多発生の条件となっている。〈±~+〉 (気温やや高：±~+)

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 圃場毎に発生量は異なるため、必ず各圃場での発生状況を確認し、幼虫による加害が続いているほ場では防除を行う。
- (2) 幼虫は大きくなると日中は物かげにかくれ、夜間に活動する習性があるので、薬剤散布は夕方に行う。



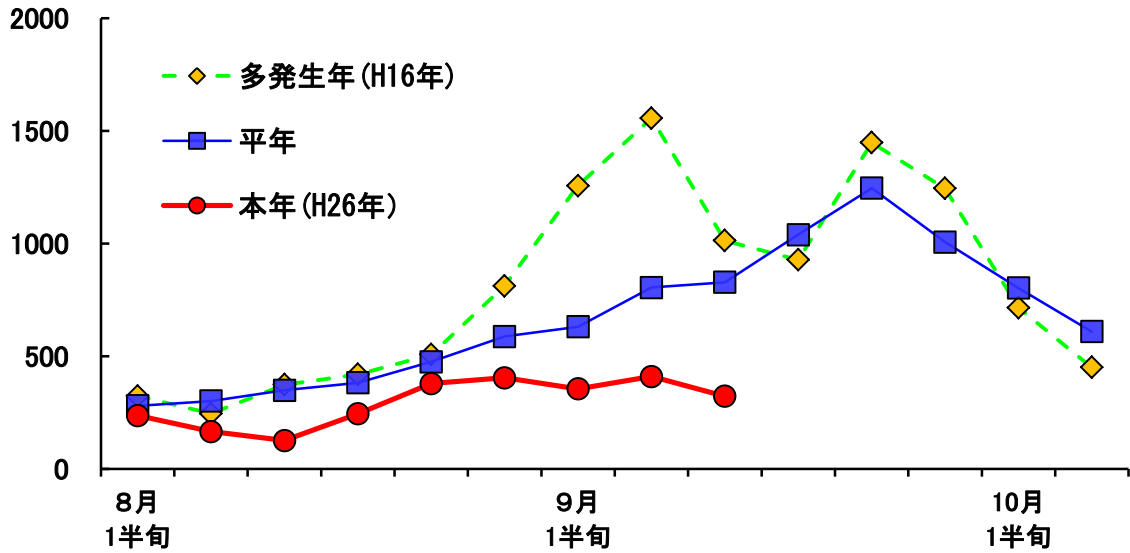


図1 フェロモントラップによるハスモンヨトウの半旬別誘殺数（9月3半旬まで）
 （農業共済組合、農業試験研究センター、農業技術防除センターによる県内9地点の平均誘殺数。ただし、年によっては、8月2半旬頃から調査開始の地点がある。）

2. カメムシ類（アオクサカメムシ、イチモンジカメムジ、ホソヘリカメムシ、ミナミアオカメムシ等）

1) 予報の内容

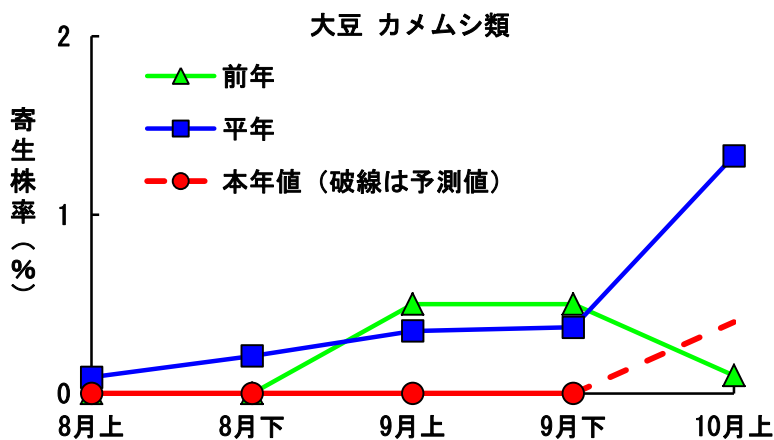
発生量：平年並（前年並）

2) 予報の根拠

- (1) 巡回調査では、寄生を認めていない（平年0.4%、前年0.5%）。〈-~±〉
- (2) 気象予報では、やや多発生の条件となっている。〈±~+〉（気温やや高：±~+）

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 圃場でカメムシ類が散見される場合は、臨機防除を行う。
- (2) 防除に当たっては、薬剤が着莢部によくかかるように散布する。



果 樹

【概要】

作物名	病虫害名	発生量		病虫害防除 のてびきの 記載ページ	備考
		平年比	前年比		
カンキツ	ミカンハダニ	やや多	やや多	244～249	
	チャノキイロアザミウマ	やや少	並	237～244	
果樹全般	カメムシ類	多	多	かんキツ：251～254 ナシ：301～302 ブドウ：342 9月18日付け病虫害注意報第5号参照	

【特記事項】

[カンキツ]

- 近年、秋期にアザミウマ類による加害が問題となっている。常発生園では10月にも必ず防除を行う。また、被害果は、腐敗果の発生原因となるため、見つけ次第取り除き園外で処分する。
- 果実腐敗を防止するために、薬剤散布を丁寧に行う。さらに、降雨時・結露時等の収穫は避け、収穫を丁寧に行う等の耕種的対策も励行する。
- かいよう病の発生を防ぐために、台風襲来が予想される場合には襲来の1～7日前までに必ず防除を行う。
- ミカンサビダニの被害果が認められる園では早急に防除を行う。

[落葉果樹]

- ナシでは、黒星病や炭疽病（葉炭疽病）の翌年の伝染源となる鱗片、葉等への感染を防止するため、収穫終了後の防除を徹底する。また、落葉はこれらの病害の重要な伝染源となるので、必ず園外で処分する。
- ブドウでは、べと病及び褐斑病による早期落葉の防止及び園内の菌密度低下のために、収穫終了後も防除を徹底するとともに、落葉は必ず園外で処分する。
- キウイフルーツでは、かいよう病の発生が確認されている。疑わしい症状が見つかった場合は、すぐに関係機関へ連絡する。（[平成26年5月22日付け病虫害発生予察特殊報第2号参照](#)）

[果樹全般]

- 果樹カメムシ類の果樹園地内への飛来が県内各地でみられるので、こまめに園内を見て回り、確認した場合は早急に防除を行う（[平成26年9月18日付け病虫害発生予察注意報第5号参照](#)）。
- 本年はツヤアオカメムシの発生が多く、果樹類への被害が遅い時期まで続く可能性があるため注意する。

カンキツ

(巡回調査日：9月17日～19日)



巡回調査時の生育状況

1. ミカンハダニ

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い（前年よりやや多い）

2) 予報の根拠

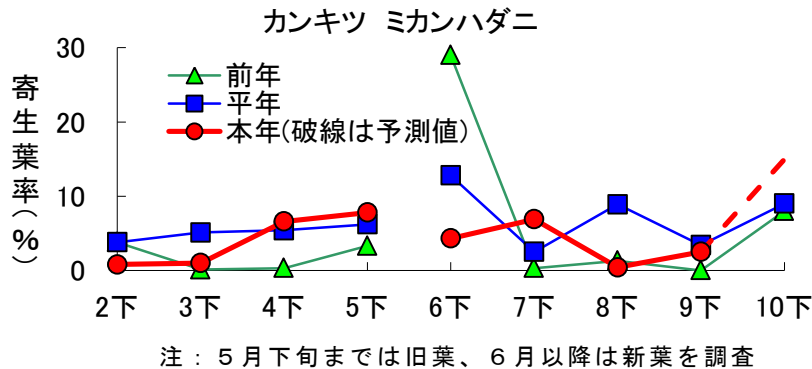
(1)巡回調査では、寄生株率は2.5%（平年3.4%、前年0%）であり、平年並で前年よりやや多い。〈±〉

(2)気象予報では、やや多発生の条件となっている。〈±～+〉（気温やや高：±～+）

3) 防除上注意すべき事項

(1)殺ダニ剤に対する抵抗性の発達を避けるため、同一系統の薬剤は年1回の使用とする。また、前年使用した殺ダニ剤は使用しない。

(2)薬剤の防除効果があがるよう、低密度時（寄生葉率30%未満または1葉当たりの雌成虫の数が0.5～1頭）に防除を行う。



果樹全般

1. カメムシ類

1) 予報の内容

発生量：平年より多い（前年より多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生量

①予察灯（県内3地点、図1、表1）による誘殺数は1地点で9月に入り急増し、平年及び前年より多く推移した。〈+〉

②県内の果樹園において、果樹カメムシ類の飛来が認められている。〈±～+〉

③フェロモントラップ（県内6地点、図2、表2）による誘殺数は、平年および前年並である。〈±〉

④ヒノキ毬果における寄生数は、9月上旬時点では20.7頭であったが、9月下旬の調査では、成幼虫数は15.9頭（平年9.4頭、前年5.5頭）に減少しており、ヒノキ毬果からの離脱が始まっている（表3）。〈+〉

⑤ヒノキ毬果における口針数数は、9月上旬の調査では14.4本/果（平年17.3本/果、前年7.6本/果）、9月下旬の調査では16.0本/果（平年22.1本/果、前年19.0本/果）である（表3）。〈±〉

(2)気象予報では、やや多発生の条件となっている。〈±～+〉（気温やや高：±～+）

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 地域や圃場によって発生に違いがあるので、こまめに園内を見て回り、発生を確認した場合は早急に防除を行う。
- (2) 果樹カメムシ類は樹高の高い樹木に一度飛来して、その後果樹園に飛来する傾向があるので、防風樹等は必要以上に高くならないように剪除する。
- (3) 合成ピレスロイド剤等を散布するとハダニ類やカイガラムシ類の異常増殖（リサージェンス）を生じる場合があるので、これら害虫の防除対策も実施する。
- (4) 県内各調査地点における誘殺状況の推移については、佐賀県農業技術防除センターHPの「[病害虫データ情報](#)」を参照する。
- (5) その他詳しい情報は、[平成26年9月18日付け病害虫発生予察注意報第5号](#)を参照する。

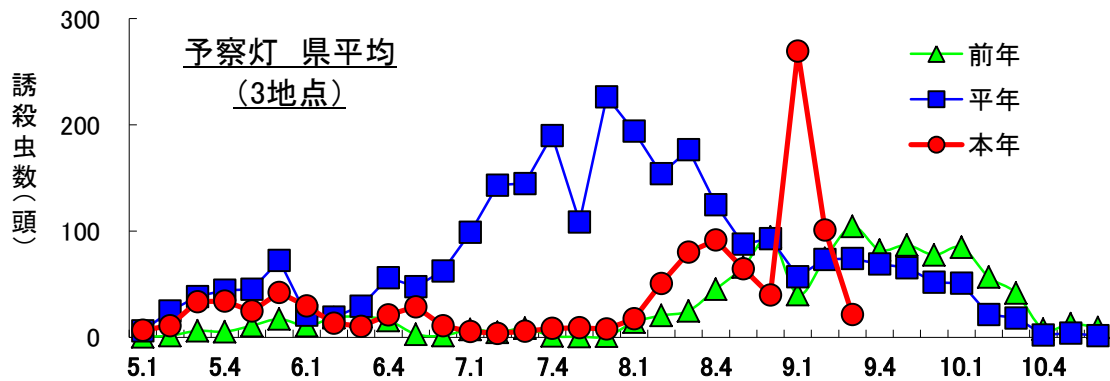


図1 予察灯による果樹カメムシの誘殺状況の推移(県平均)

表1 予察灯による果樹カメムシ類の誘殺状況の推移(県内各調査地点の値)

月・半旬	佐賀市 大和町			小城市 小城町			藤津郡 太良町		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
8.1	44	181	35	24	529	22	2	8	0
8.2	163	210	45	39	351	37	1	9	0
8.3	227	285	88	94	382	12	0	7	0
8.4	277	236	141	85	267	40	4	9	0
8.5	201	153	117	55	192	147	2	5	0
8.6	157	251	133	1	232	245	1	4	0
9.1	96	127	108	981	148	52	1	4	0
9.2	99	150	109	305	158	114	1	5	故障
9.3	122	184	167	16	133	146	1	8	
9.4		171	202		97	45		15	
9.5		229	225		95	36		16	
9.6		115	197		55	36		24	
10.1		159	180		53	74		31	
10.2		72	141		40	29		7	
10.3		48	120		17	5		3	
10.4		2	16		5	7		2	
10.5		8	28		5	10		3	
10.6		4	25		1	3		3	

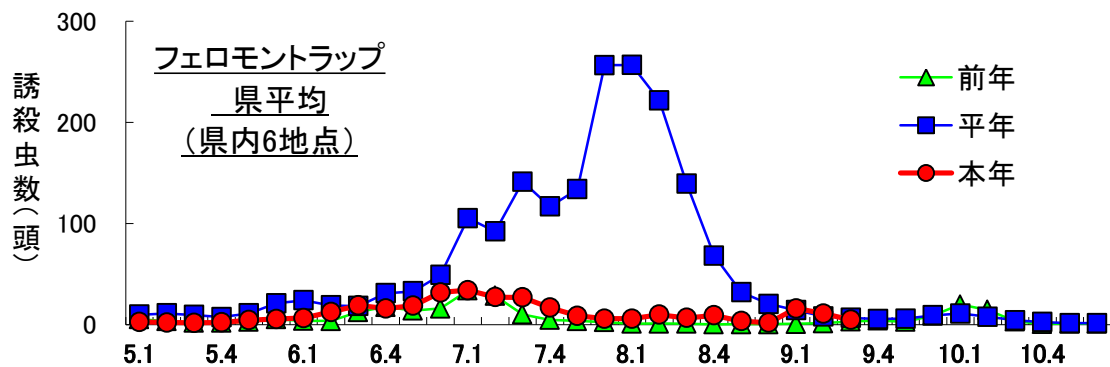


図2 フェロモントラップによる果樹カメムシの誘殺状況の推移(県平均)

表2 フェロモントラップによる果樹カメムシ類の誘殺状況の推移(県内各調査地点の値)

月・半旬	三養基郡 基山町			唐津市 浜玉町			唐津市 鎮西町		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
8.1	11	160	0	2	355	0	0	723	0
8.2	5	103	0	11	515	1	1	335	0
8.3	0	69	0	12	415	0	1	77	0
8.4	0	35	0	11	186	0	0	4	0
8.5	0	11	0	5	104	0	0	4	0
8.6	0	4	0	4	73	0	0	2	0
9.1	0	10	0	64	46	0	0	2	0
9.2	0	0	0	52	23	0	3	1	0
9.3	0	1	0	11	17	0	7	0	1
9.4		1	0		13	0		0	0
9.5		1	0		18	0		0	0
9.6		1	0		29	0		0	0
10.1		1	0		29	0		0	0
10.2		1	0		18	0		0	0
10.3		1	0		8	0		0	0
10.4		1	0		3	0		0	0
10.5		0	0		1	0		0	0
10.6		0	0		2	0		0	0
月・半旬	鹿島市 古枝			伊万里市 南波多町			小城市 小城町		
	本年	平年	前年	本年	平年	前年	本年	平年	前年
8.1	12	91	5	0	162	0	9	33	1
8.2	12	99	2	1	114	3	30	40	1
8.3	16	80	1	3	48	3	8	31	1
8.4	31	33	1	7	58	0	5	21	1
8.5	12	11	0	1	26	2	3	7	1
8.6	5	18	0	1	6	1	2	4	1
9.1	3	11	1	1	1	1	28	8	4
9.2	3	8	0	0	3	5	8	9	3
9.3	8	11	13	0	1	2	3	6	3
9.4		13	14		1	1		4	9
9.5		12	7		1	1		4	9
9.6		18	16		7	22		5	16
10.1		20	31		16	18		8	69
10.2		23	37		10	4		6	46
10.3		24	0		8	2		3	18
10.4		15	0		9	3		2	1
10.5		9	0		4	4		0	1
10.6		11	0		1	5		0	0

表3 ヒノキ毬果における果樹カメムシ類寄生虫数及び口針鞘数

No.	調査地	ヒノキ毬果における寄生状況							口針鞘数					ヒノキ毬果着果状況
		7月下旬合計	8月上旬合計	8月下旬合計	9月上旬合計	9月下旬		9月下旬合計	7月下旬	8月上旬	8月下旬	9月上旬	9月下旬	
						成虫 ¹⁾	幼虫							
1	上峰町	1	20	8	10	16	0	16	0.1	3.2	6.5	5.3	10.2	中 ²⁾
2	神埼市	18	24	1	0	2	0	2	0.7	9.7	15.8	15.0	27.7	やや多
3	小城市	4	8	2	20	6	5	11	1.3	17.9	16.1	10.1	17.8	やや少
4	多久市	9	24	5	0	1	0	1	0.2	9.3	16.4	13.8	25.3	やや多
5	唐津市1	3	27	18	4	7	1	8	0.4	3.7	9.5	24.9	23.6	やや多
6	唐津市2	8	35	35	32	10	1	11	0.3	5.6	18.8	16.1	22.3	やや多
7	伊万里市1	42	30	53	14	4	0	4	0.9	11.6	13.8	17.8	13.4	やや多
8	伊万里市2	4	7	22	15	5	5	10	1.1	4.7	12.8	21.8	10.4	やや少
9	伊万里市3	14	9	14	8	0	3	3	1.3	2.8	5.0	9.3	11.4	中
10	白石町	6	4	2	10	5	0	0	1.3	2.6	8.9	18.4	12.0	極多
11	鹿島市1	0	33	25	45	30	2	32	0.1	0.6	2.3	10.7	11.2	やや多
12	鹿島市2	2	7	73	89	77	8	85	0.2	1.2	5.5	18.1	15.9	多
13	鹿島市3	7	9	40	32	34	0	34	0.8	2.6	10.8	9.8	13.7	極多
14	太良町1	29	2	22	20	7	2	9	0.9	5.1	17.2	14.4	17.1	やや多
15	太良町2	12	4	21	11	13	0	13	2.0	1.6	7.3	10.4	8.9	中
	平均	10.6	16.2	22.7	20.7	14.5	1.8	15.9	0.7	5.5	11.1	14.4	16.0	やや多
	平年	14.1	12.8	13.4	11.5			9.4	3.5	8.4	12.7	17.3	22.1	
	前年(H25年)	4.5	1.1	7.1	10.7			5.5	1.0	2.9	6.2	7.6	19.0	やや少

1)チャバネアオカメムシ及びツヤアオカメムシの寄生が主であった。

2)ヒノキ毬果着果指数：福岡総農試の達観調査法(一部改変)に基づいて調査

- ・極少：ほとんど結実が見あたらない
- ・少：梢頭部にわずかに結実
- ・やや少：梢頭部から中央部周辺にかけて結実した樹と梢頭部にわずかに結実した樹が混在
- ・中：梢頭部から中央部付近にかけて結実
- ・やや多：梢頭部から最下部にかけて全面的に結実した樹と全面的に結実しない樹が混在
- ・多：梢頭部から最下部にかけて全面的に結実
- ・極多：梢頭部から最下部にかけて全面的にブドウ状に結実
- ・極多：梢頭部から最下部にかけて全面的にブドウ状に結実

野菜

【概要】

作物名	病害虫名	発生量		病害虫防除の てびき記載ページ	備考
		平年比	前年比		
イチゴ (本圃)	うどんこ病	多	多	188～191	平成26年9月4日付病害虫発生予察注意報第4号参照
	ハダニ類	やや多	多	199～200	
	アブラムシ類	並	並	204～205	
ナス	アザミウマ類	並	並	244～245	
	コナジラミ類	並	並	243	
	ハモグリバエ類	並	並	246	
キュウリ	べと病	並	やや多	166～168	
	うどんこ病	多	やや多	173～175	
	褐斑病	やや少	並	170～172	
	アザミウマ類	多	やや多	183～184	
	コナジラミ類	並	並	181～182	
アスパラ ガス	茎枯病	並	やや多	298～299	
	褐斑病	やや多	やや多	299～300	
	斑点病	並	多	299	
	アザミウマ類	やや多	やや少	301～302	
	ハダニ類	やや多	やや多	302	
野菜共通	チョウ目害虫（ハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウ、材外ハコガ）	並	並	156～158 イチゴ：200～202 ナス：241～242 アスパラガス：301、303～304 キク：350	

【特記事項】

[イチゴ]

- イチゴうどんこ病の発生が増加する時期であるため、定期的な防除を実施する。特に、本圃定植後の活着時～頂花房開花前までは約10日間隔で薬剤散布を行い、葉での発生を抑え、その後の果実における発病を防ぐ（[平成26年9月4日付病害虫発生予察注意報第4号参照](#)）。また、次年度親株についても防除を徹底する。

[施設果菜類（ナス、キュウリ、トマト等）共通]

- コナジラミ類やアザミウマ類は、多発生すると防除が困難であることから、発生初期の防除を徹底する。圃場においてこれらが媒介するトマト黄化葉巻病やキュウリ黄化えそ病、キュウリ退緑黄化病の発生がみられる場合は、伝染源となるため早急に抜き取り、圃場外へ持ち出し適切に処分する。
- チョウ目害虫については、早期発見に努め、若齢幼虫のうちに防除を徹底する。
- 天敵導入を予定している圃場では、天敵に影響の少ない薬剤等で害虫を極低密度まで下げてから、天敵を放飼する。

イチゴ（本圃）

（巡回調査：9月16日～19日）



巡回調査時の生育状況

1. うどんこ病

1) 予報の内容

発生量：平年より多い（前年より多い）

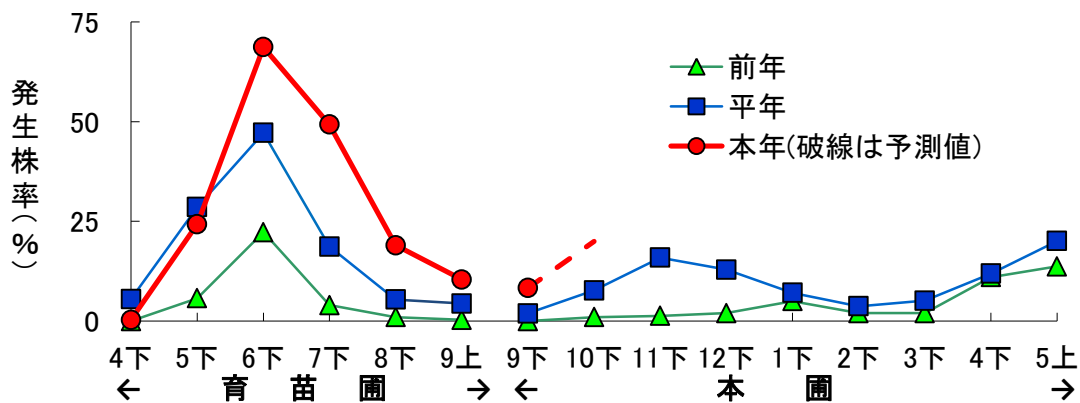
2) 予報の根拠

- (1)巡回調査では、発生株率は8.3%（平年1.9%、前年0%）であり、平年及び前年より多い。〈+〉
- (2)病害虫防除員の調査では、発生を認めていない。〈±〉
- (3)気象予報では、並発生の条件となっている。〈±〉

3) 防除上注意すべき事項

- (1)葉裏にも薬液が十分かかるように散布する。
- (2)薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤を連用しない。
- (3)詳細な防除対策は[平成26年9月4日付病害虫発生予察注意報第4号](#)を参照する。

イチゴ うどんこ病



2. ハダニ類

1) 予報の内容

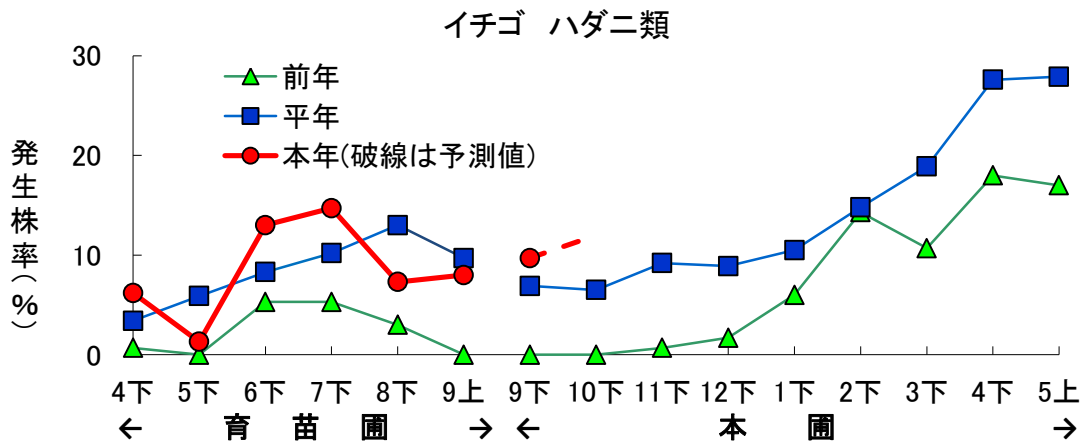
発生量：平年よりやや多い（前年より多い）

2) 予報の根拠

- (1)巡回調査では、寄生株率は9.7%（平年6.9%、前年0%）であり、平年並で前年より多い。〈±〉
- (2)病害虫防除員の調査では、寄生を認めていない。〈±〉
- (3)気象予報では、やや多発生の条件となっている。〈±～+〉（気温やや高：±～+）

3) 防除上注意すべき事項

- (1)本種は薬液のかかりにくい葉裏や下位葉に寄生していることが多いので、薬液が十分かかるよう散布する。
- (2)薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤を連用しない。



ナス（促成） （巡回調査：9月17～18日）



巡回調査時の生育状況

1. アザミウマ類

1) 予報の内容

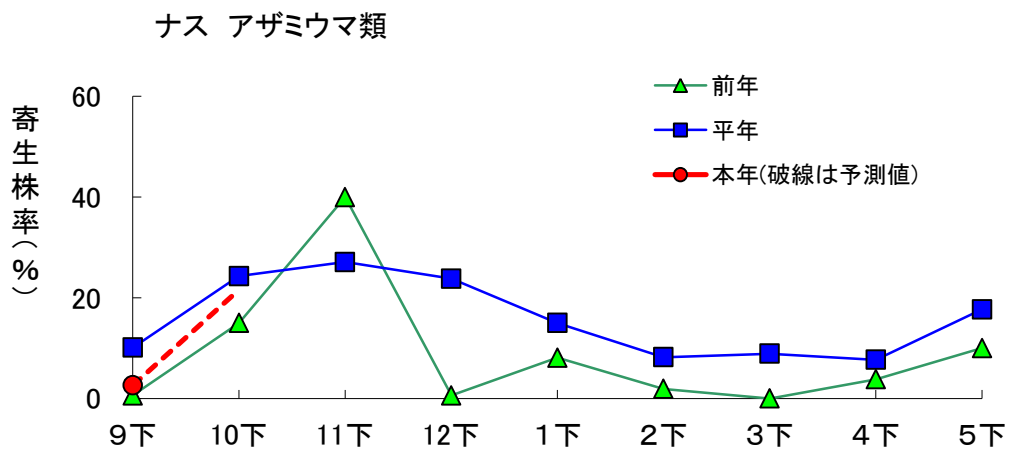
発生量：平年並（前年並）

2) 予報の根拠

- (1) 巡回調査では、寄生株率は2.9%（平年10.1%、前年0.6%）であり、平年よりやや少なく前年並である。（-～±）
- (2) 病害虫防除員の調査（4圃場）では、発生を認めていない。（-～±）
- (3) 気象予報ではやや多発生の条件となっている。（±～+）（気温やや高：±～+）

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 葉裏や下位葉にも薬液が十分かかるように丁寧に散布する。
- (2) 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤を連用しない。



2. コナジラミ類

1) 予報の内容

発生量：平年並（前年並）

2) 予報の根拠

(1) 巡回調査では、寄生株率は47.9%（平年66.1%、前年32.5%）で、平年よりやや少なく前年よりやや多い。〈-~±〉

(2) 病害虫防除員の調査（4圃場）では、2圃場で寄生が見られ、寄生株率は10.0%である。〈-〉

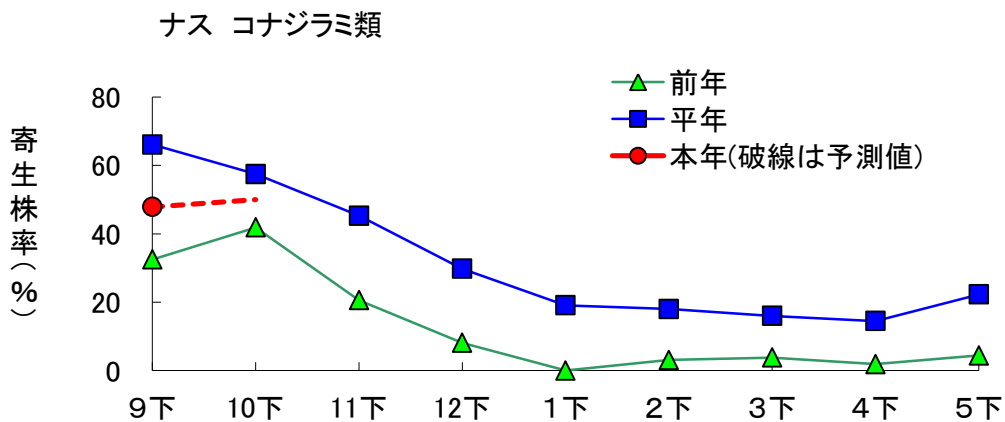
(3) 気象予報ではやや多発生の条件となっている。〈±~+〉（気温やや高：±~+）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 施設内の密度を下げるため、寄生葉はできるだけ除去して、施設外へ持ち出し処分する。

(2) 葉裏や下位葉にも薬液が十分にかかるように丁寧に散布する。

(3) 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤を連用しない。



キュウリ（抑制）

（巡回調査：9月18日～19日）



巡回調査時の生育状況

1. べと病

1) 予報の内容

発生量：平年並（前年よりやや多い）

2) 予報の根拠

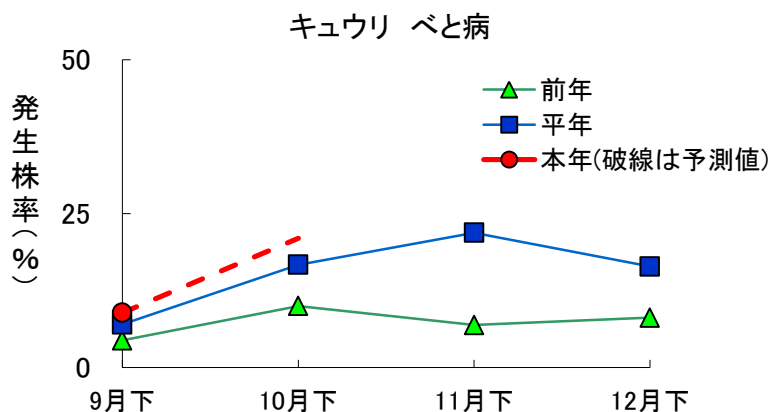
(1) 巡回調査では、発生株率は8.9%（平年7.0%、前年4.4%）であり、平年並で前年よりやや多い。〈±〉

(2) 気象予報では、並発生の条件となっている。〈±〉

3) 防除上注意すべき事項

(1) 適湿管理に努める。

(2) 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤を連用しない。



2. うどんこ病

1) 予報の内容

発生量：平年より多い（前年よりやや多い）

2) 予報の根拠

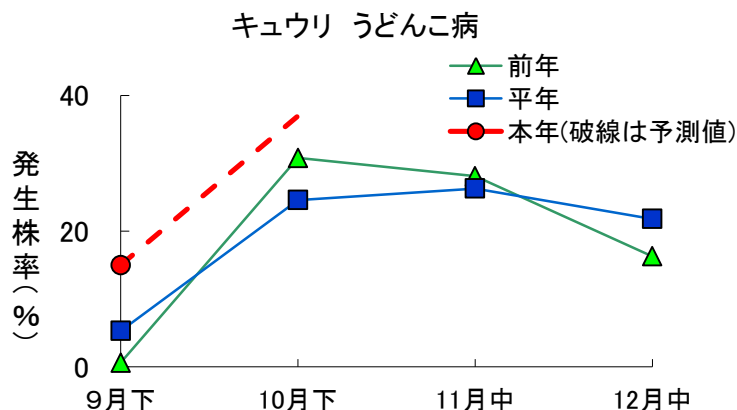
(1) 巡回調査では、発生株率は15.0%（平年5.3%、前年0.6%）であり、平年及び前年より多い。〈+〉

(2) 気象予報では、並発生の条件となっている。〈±〉

3) 防除上注意すべき事項

(1) 発生初期のうちに防除の徹底をはかる

(2) 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤を連用しない。



3. 褐斑病

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少ない（前年並）

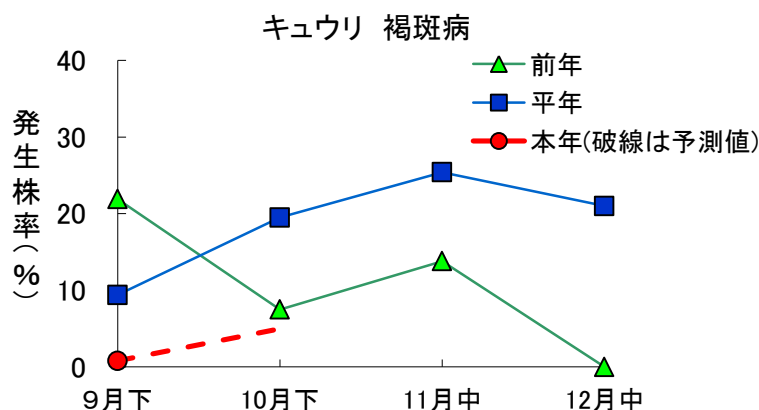
2) 予報の根拠

(1) 巡回調査では、発生株率は0.8%（平年9.4%、前年21.9%）であり、平年よりやや少なく前年より少ない。〈-〜±〉

(2) 気象予報では、並発生の条件となっている。〈±〉

3) 防除上注意すべき事項

(1) 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤を連用しない。



4. アザミウマ類

1) 予報の内容

発生量：平年より多い（前年よりやや多い）

2) 予報の根拠

(1) 巡回調査では、寄生株率は6.3%（平年1.5%、前年2.5%）であり、平年及び前年より多い。〈+〉

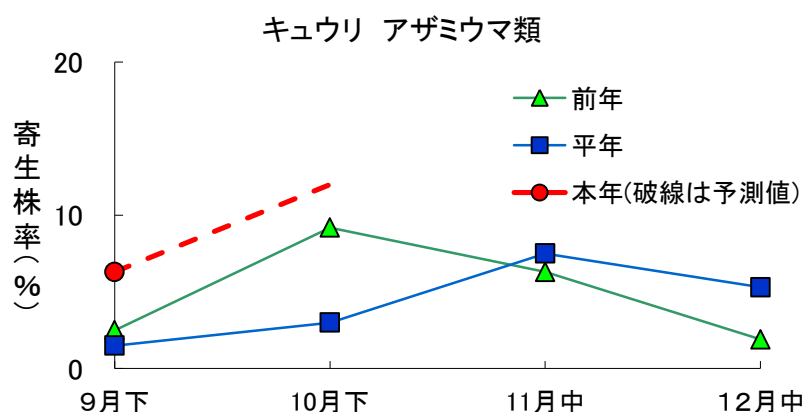
(2) 気象予報では、やや多発生の条件となっている。〈±~+〉（気温やや高：±~+）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 施設開口部に防虫ネット等を設置し、施設内への侵入を防止する。

(2) ミナミキイロアザミウマはキュウリ黄化えそ病を媒介するため、発生初期からの防除を徹底する。

(3) 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤を連用しない。



5. コナジラミ類

1) 予報の内容

発生量：平年並（前年並）

2) 予報の根拠

(1) 巡回調査では、寄生株率は3.8%（平年13.3%、前年5.6%）であり、平年よりやや少なく前年並である。〈-~±〉

(2) 気象予報では、やや多発生の条件となっている。〈±~+〉（気温やや高：±~+）

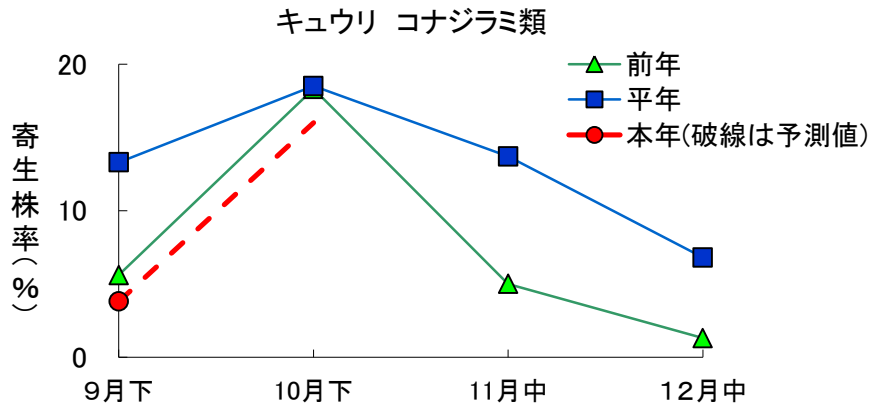
3) 防除上注意すべき事項

(1) 施設開口部に防虫ネット等を設置し、施設内への侵入を防止する。

(2) タバココナジラミはキュウリ退緑黄化病を媒介するため、発生初期からの防除を徹底する。

(3) 施設内の密度を下げるため、幼虫寄生葉は可能な限り除去して、施設外へ持ち出して適切に処分する。

(4) 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤を連用しない。



アスパラガス

(巡回調査：9月18日～19日)



巡回調査時の生育状況

1. 茎枯病

1) 予報の内容

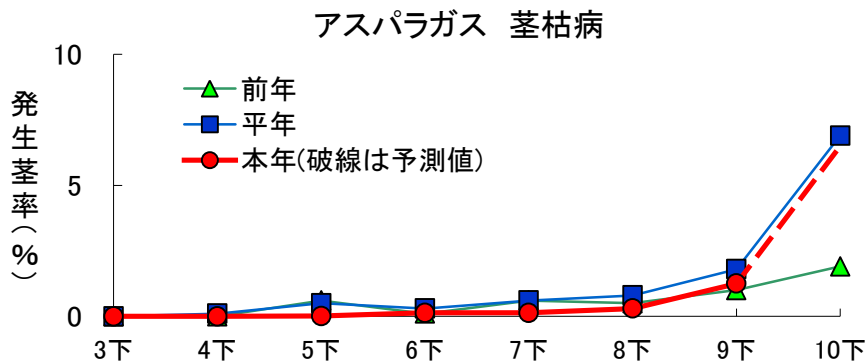
発生量：平年並 (前年よりやや多い)

2) 予報の根拠

- (1) 巡回調査では、発生株率は1.3% (平年1.8%、前年1.0%) であり、平年及び前年並である。〈±〉
- (2) 気象予報では、並発生条件となっている。〈±〉

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 発病茎は早急に除去し、圃場外で処分する。
- (2) 水はね等により菌が飛散するため、灌水等は水滴の小さなもので行う。
- (3) 雨の降り込みを防ぐため、強い雨風のときはサイドビニルを下ろす。



2. 褐斑病

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い (前年よりやや多い)

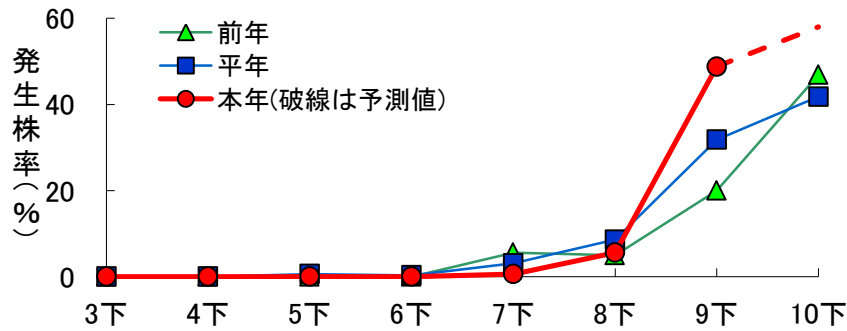
2) 予報の根拠

- (1) 巡回調査では、発生株率は48.8% (平年31.8%、前年20.0%) であり、平年よりやや多く前年より多い。〈±～+〉
- (2) 気象予報では、並発生条件となっている。〈±〉

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 罹病葉は早急に除去・処分し、防除を徹底する。
- (2) 過繁茂にならないよう、茎葉を適切に管理し、通風をよくする。

アスパラガス 褐斑病



3. アザミウマ類 (ネギアザミウマ)

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い（前年よりやや少ない）

2) 予報の根拠

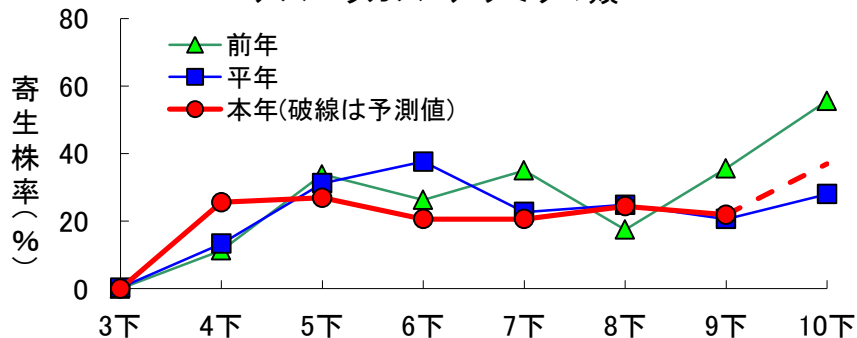
(1) 巡回調査では、寄生株率は21.9%（平年20.6%、前年35.6%）であり、平年並で前年よりやや少ない。〈±〉

(2) 気象予報では、やや多発生の条件となっている。〈±～+〉（気温やや高：±～+）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤を連用しない。

アスパラガス アザミウマ類



4. ハダニ類

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い（前年よりやや多い）

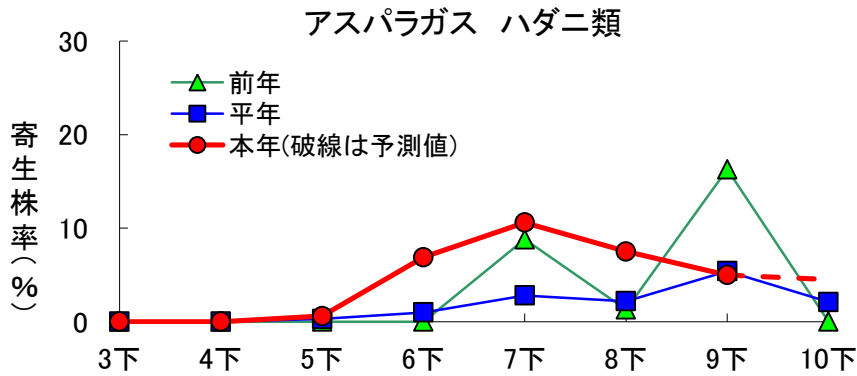
2) 予報の根拠

(1) 巡回調査では、寄生株率は5.0%（平年5.4%、前年16.3%）であり、平年並で前年より少ない。〈±〉

(2) 気象予報では、やや多発生の条件となっている。〈±～+〉（気温やや高：±～+）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤を連用しない。



野菜共通

1. チョウ目害虫 (ハスモンヨトウ, シロイチモジヨトウ, オオタバコガ)

1) 予報の内容

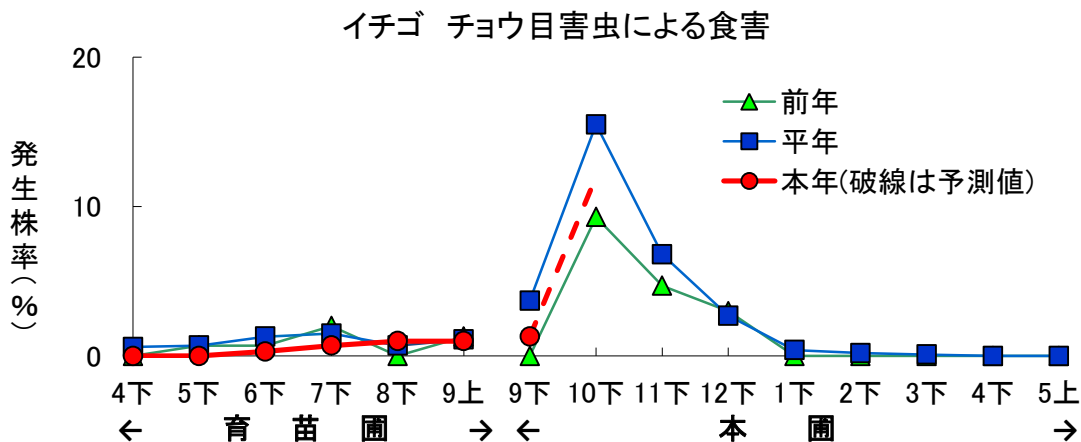
発生量：平年並（前年並）

2) 予報の根拠

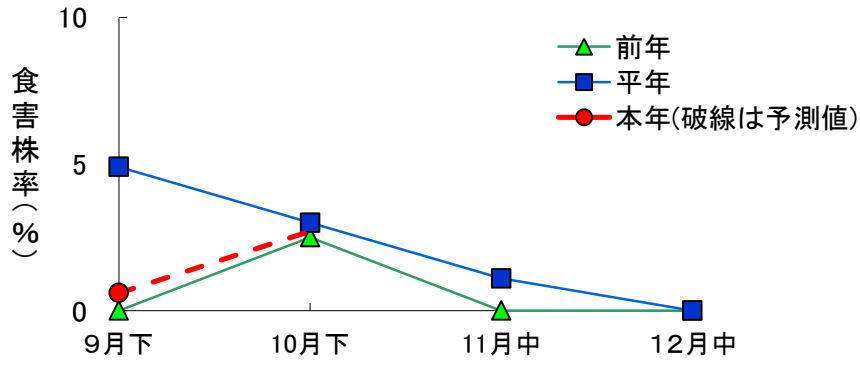
- (1) 巡回調査では、イチゴにおける食害株率は1.3%（平年3.7%、前年0%）であり、平年および前年並である。〈±〉
- (2) 巡回調査では、キュウリにおける食害株率は0.6%（平年4.9%、前年0%）であり、平年よりやや少なく前年並である。〈-~±〉
- (3) 巡回調査では、アスパラガスにおける食害を認めていない（食害株率：平年7.2%、前年0%）。〈-~±〉
- (4) 巡回調査では、ナスにおける食害を認めていない（食害株率：平年5.0%、前年0%）。〈-~±〉
- (5) フェロモントラップにおけるハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウ及びオオタバコガの誘殺数は平年よりやや少なく推移している（第1~5図）。〈-~±〉
- (6) 気象予報では、やや多発生の条件となっている。〈±~+〉（気温やや高：±~+）

3) 防除上注意すべき事項

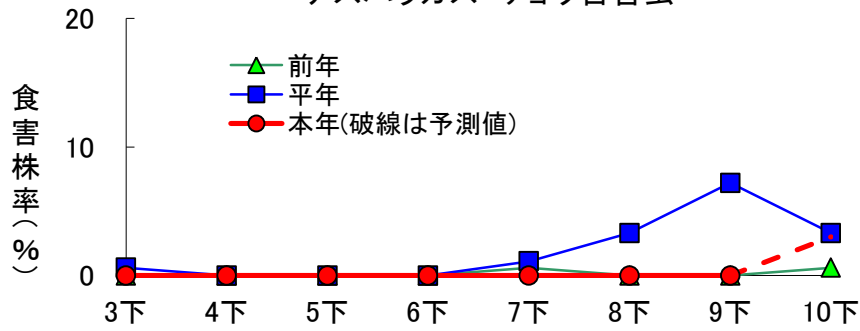
- (1) 施設開口部に防虫ネット等を設置し、施設内への侵入を防止する。
- (2) 幼虫の齢が進むと薬剤の効果が落ちるので、早期発見に努め、若齢幼虫のうちに防除を徹底する。



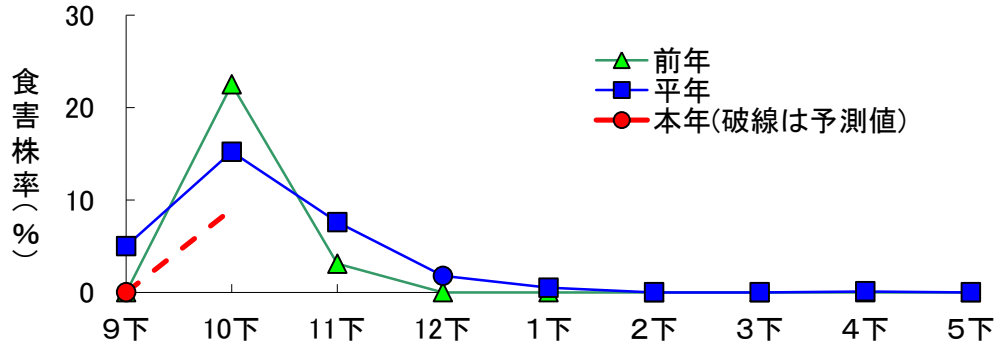
キュウリ チョウ目害虫の食害



アスパラガス チョウ目害虫



ナス チョウ目害虫の食害



チョウ目害虫のトラップデータ

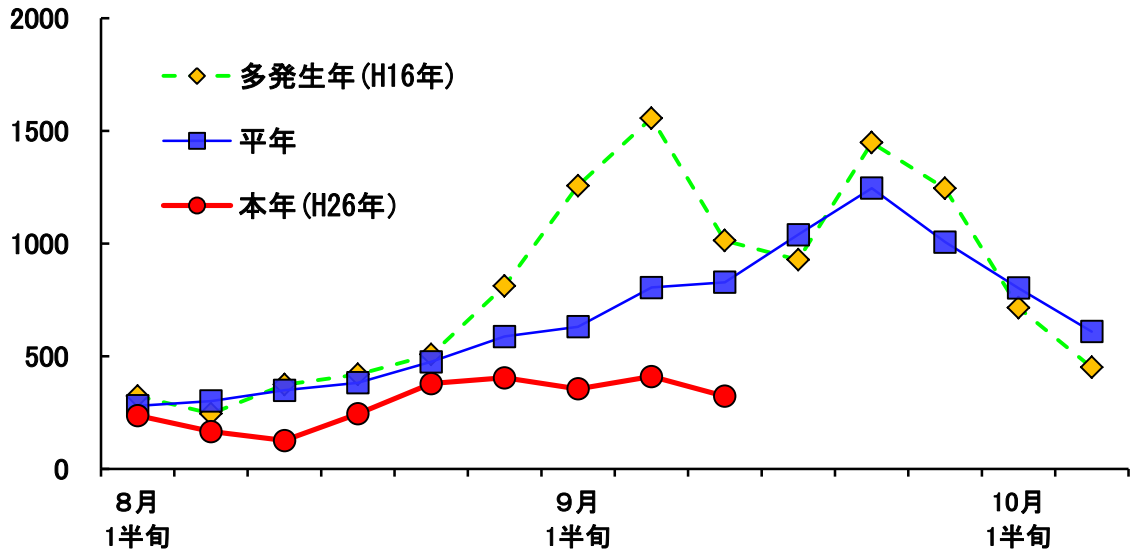


図1 フェロモントラップによるハスモンヨトウの半旬別誘殺数（9月3半旬まで）
（農業共済組合、農業試験研究センター、農業技術防除センターによる県内9地点の平均誘殺数。ただし、年によっては、8月2半旬頃から調査開始の地点がある。）

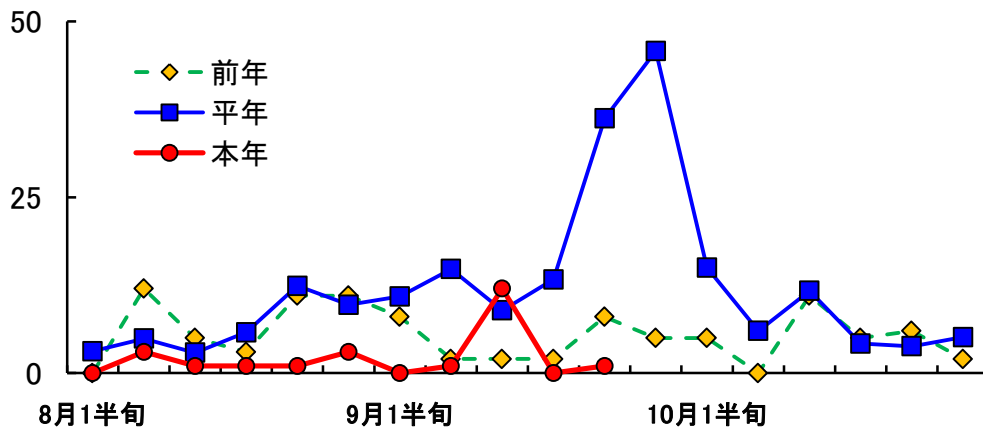


図2 フェロモントラップによるシロイチモジヨトウの半旬別誘殺数
（川副町・農業試験研究センター調査）

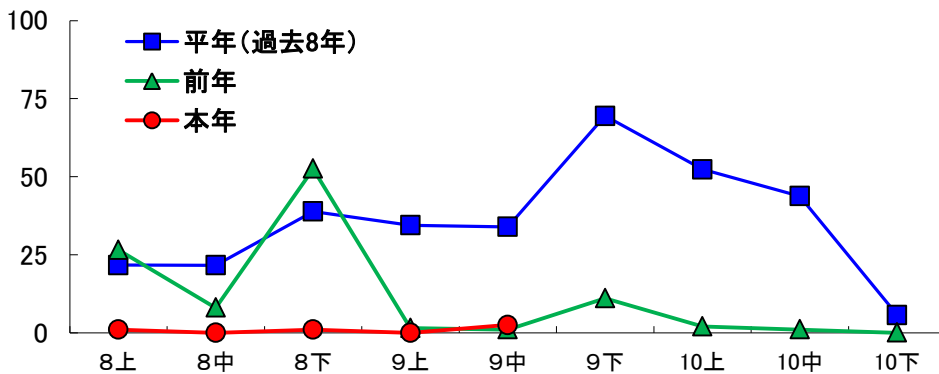


図3 フェロモントラップによるシロイチモジヨトウの旬別誘殺数
（病害虫防除員調査による県内2地点の平均誘殺数）

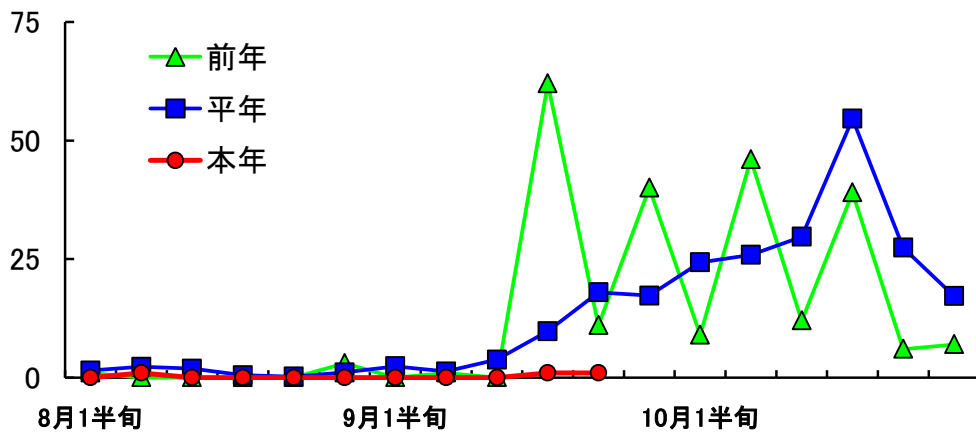


図4 フェロモントラップによるオオタバコガの半旬別誘殺数
(川副町・農業試験研究センター調査)

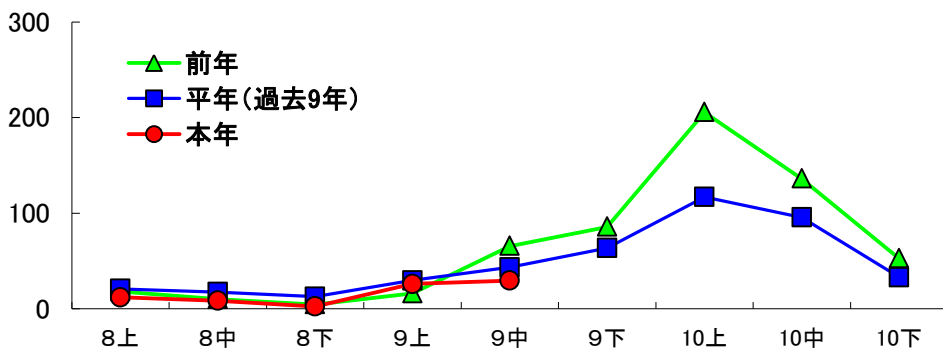


図5 フェロモントラップによるオオタバコガの旬別誘殺数
(病害虫防除員調査による県内2地点の平均誘殺数)

([野菜共通に戻る](#))
([花きに戻る](#))

花き

【概要】

作物名	病害虫名	発 生 量		病害虫防除の てびき記載ペ ージ	備考
		平年比	前年比		
キク (年末出荷 タイプ)	白さび病	並	並	343	
	アザミウマ類	やや多	やや多	348～350	
	アブラムシ類	並	並	346～347	
	ハダニ類	並	やや多	347～348	
	ハモグリバエ類	並	やや多	351	
	チョウ目害虫	並	並	350	

【特記事項】

1. キクえそ病や茎えそ病を媒介するアザミウマ類に対しては、生息源となる圃場周辺の雑草を除草するとともに、発生初期からの防除を徹底する。
2. チョウ目害虫は、幼虫の齢が進むと薬剤の効果が落ちるので、早期発見に努め、若齢幼虫のうちに防除を徹底する。特に、オオタバコガは薬剤がかかりにくい新芽や花蕾に食入するので、よく観察して初期防除を徹底する。

キク

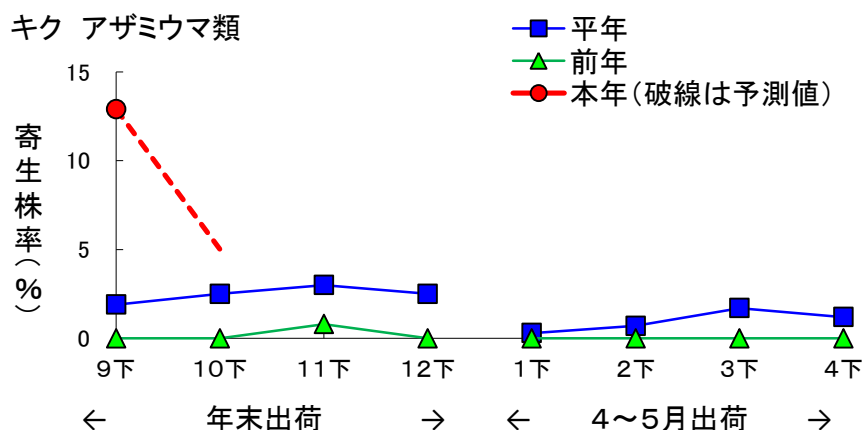
(巡回調査：9月17日～21日)



巡回調査時の生育状況

1. アザミウマ類(ミナミキイロアザミウマ、ミカンキイロアザミウマ、クロゲハナアザミウマ)

- 1) 予報の内容
発生量：平年よりやや多い（前年よりやや多い）
- 2) 予報の根拠
 - (1) 巡回調査では、寄生株率は12.9%（平年1.9%、前年0.0%）であり、平年および前年より多いが、多発生圃場は一部に限られる。〈±～+〉
 - (2) 気象予報では、やや多発生の条件となっている。〈±～+〉（気温やや高：±～+）
- 3) 防除上注意すべき事項
 - (1) 発生初期からの防除を徹底する。
 - (2) 圃場周辺の雑草は生息源となるため、除草を徹底する。
 - (3) クロゲハナアザミウマは薬液のかかりにくい葉裏に寄生していることが多いので、薬液が十分かかるよう丁寧に散布する。



2. ハダニ類

1) 予報の内容

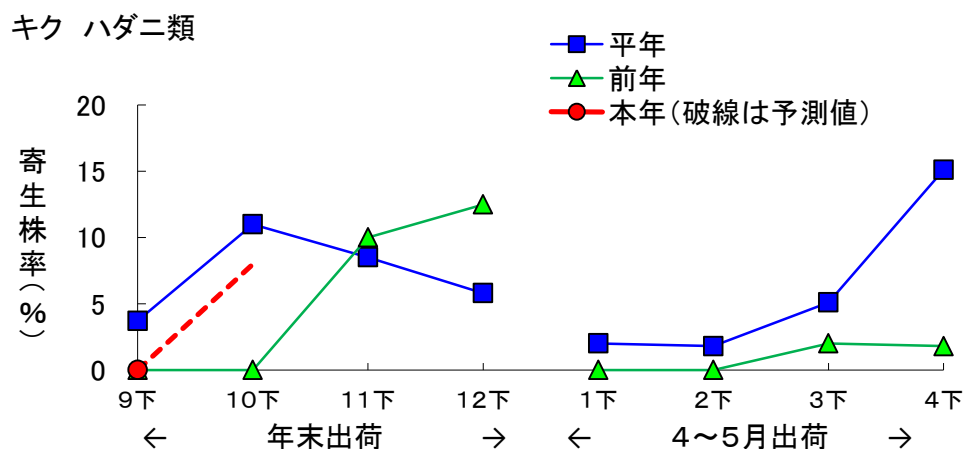
発生量：平年並（前年よりやや多い）

2) 予報の根拠

- (1)巡回調査では、発生を認めていない（寄生株率：平年3.7%、前年0.0%）。〈-~±〉
 (2)気象予報では、やや多発生の条件となっている。〈±~+〉（気温やや高：±~+）

3) 防除上注意すべき事項

- (1)本種は薬液のかかりにくい葉裏や下位葉に寄生していることが多いので、薬液が十分かかるよう散布する。
 (2)薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤を連用しない。



3. チョウ目害虫(ハスモンヨトウ,シロイチモジヨトウ,オオタバコガ)

1) 予報の内容

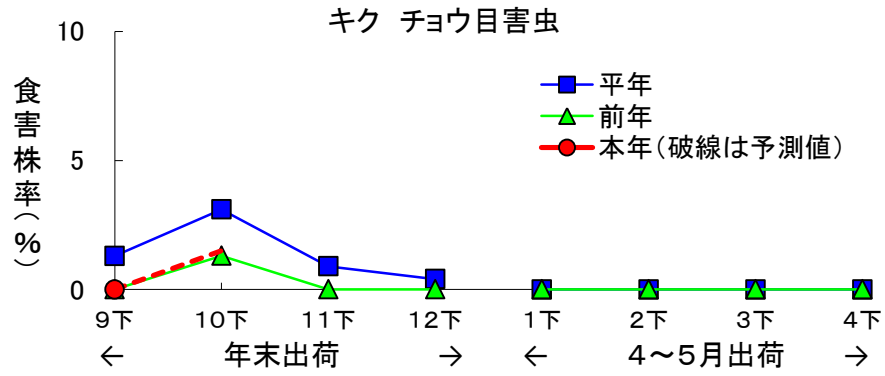
発生量：平年並（前年並）

2) 予報の根拠

- (1)巡回調査では、キクにおける食害を認めていない（食害株率：平年1.3%、前年0%）。〈-~±〉
 (2)フェロモントラップにおけるハスモンヨトウ、シロイチモジヨトウ及びオオタバコガの誘殺数は平年よりやや少なく推移している（P20の図1~3、P21の図4及び図5）〈-~±〉
 (3)気象予報では、やや多発生の条件となっている。〈±~+〉（気温やや高：±~+）

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 施設開口部に防虫ネット等を設置し、施設内への侵入を防止する。
- (2) 幼虫の齢が進むと薬剤の効果落ちるので、早期発見に努め、若齢幼虫のうちに防除を徹底する。



5. 病害虫等診断依頼状況

平成26年8月21日～平成26年9月20日までに農業技術防除センター及び各試験研究機関に持ち込まれ、同期間中に診断が完了した病害虫の診断結果は次のとおりです。

作物名	依頼件数	診断結果(件数)
果樹	ブドウ	2 晩腐病(1)、ブドウスカシバ(1)
	ナシ	1 さび色胴枯病(1)
	カンキツ	1 生理障害等(1)
	計	4
野菜	アスパラガス	8 立枯病(3)、疫病(2)、軟腐病(1)、生理障害等(2)
	イチゴ	13 炭疽病(2)、疫病(1)、炭疽病と葉枯炭疽病の混発(1)、生理障害等(9)
	オクラ	1 生理障害等(1)
	キュウリ	18 緑斑モザイク病(4)、黄化えそ病(3)、退緑黄化病(1)、苗立枯病(1)、生理障害等(9)
	小ネギ	3 萎凋病(2)、生理障害等(1)
	ゴボウ	1 ゴボウネモグリバエによる食害(1)
	タマネギ	1 軟腐病(1)
	トマト	2 青枯病(1)、生理障害等(1)
	ミディトマト	2 生理障害等(2)
	ナス	3 青枯病(1)、疫病(1)、生理障害等(1)
	パプリカ	1 細菌による果軸腐敗(1)
	ブロッコリー	2 黒腐病(1)、苗立枯病(1)
	ミョウガ	1 葉枯病(1)
	レタス	1 立枯病(1)
	レンコン	1 腐敗病(1)
	計	58
花き	カーネーション	2 斑点細菌病(1)、ハダニ類による食害(1)
	キク	1 ビシウム立枯病(1)
	トルコギキョウ	3 青枯病(2)、生理障害等(1)
	葉ボタン	1 黒腐病(1)
	バラ	1 バラシロカイガラムシ(1)
	計	8
その他	月桂樹	1 ルビーロウカイガラムシ(1)
	芝	1 ヘルミントスポリウム葉枯病(1)
	計	2

**合計： 25 作物
72 件**

内訳

糸状菌による病害	: 20件
細菌による病害	: 11件
ウイルス・ウイロイドによる病害	: 8件
害虫類	: 5件
生理障害等	: 28件
合計	72件

6. 全国・佐賀県で多発生している病害虫及び新たに発生した病害虫

主に8月26日～9月22日までに発表されたもの

警報・注意報（重要な病害虫の多発生が予想され、早めに防除する必要があるときに発表）				
発信元	内容	日付	作物	病害虫名
愛媛県	注意報	2014/08/22	水稲	いもち病
大分県	警報	2014/08/25	水稲	いもち病
京都府	注意報	2014/08/26	水稲	斑点米カメムシ類
岐阜県	注意報	2014/08/26	トマト	灰色かび病
岩手県	注意報	2014/08/28	キュウリ	炭疽病、べと病
福島県	注意報	2014/08/29	モモ	せん孔細菌病
香川県	注意報	2014/08/29	キュウリ	炭疽病
兵庫県	注意報	2014/08/29	水稲	トビイロウンカ
和歌山県	注意報	2014/08/29	トマト、ミニトマト	黄化葉巻病
京都府	注意報	2014/09/01	水稲	穂いもち病
茨城県	注意報	2014/09/01	大豆、野菜類、花き類	オオタバコガ
長崎県	注意報	2014/09/01	果樹共通	カメムシ類
佐賀県	注意報	2014/09/04	イチゴ	うどんこ病
熊本県	注意報	2014/09/04	トマト	灰色かび病
熊本県	注意報	2014/09/04	普通期水稲・晩期水稲	いもち病（穂いもち）
愛媛県	注意報	2014/09/04	カンキツ、カキ等	カメムシ類
岡山県	注意報	2014/09/05	水稲	紋枯病
和歌山県	注意報	2014/09/09	カンキツ	果樹カメムシ類
福岡県	注意報	2014/09/09	水稲	トビイロウンカ
鹿児島県	注意報	2014/09/10	カンキツ、ナシ、カキ	果樹カメムシ類
愛媛県	注意報	2014/09/11	水稲	トビイロウンカ
兵庫県	警報	2014/09/12	水稲	トビイロウンカ
長崎県	注意報	2014/09/16	普通期水稲	トビイロウンカ
宮崎県	注意報	2014/09/17	普通期水稲	トビイロウンカ
三重県	注意報	2014/09/17	大豆	吸実性カメムシ類
三重県	注意報	2014/09/17	果樹全般	果樹カメムシ類
佐賀県	注意報	2014/09/18	果樹全般	果樹カメムシ類
大分県	注意報	2014/09/19	普通期水稲	トビイロウンカ
佐賀県	注意報	2014/09/22	普通期水稲	トビイロウンカ

注：太字は九州地方で発表されたものを示す

特殊報（新たな病害虫が発生した時などに発表される）				
発信元	日付	作物	内容	
高知県	2014/08/26	シソ	シソサビダニ	
高知県	2014/08/26	シソ	シソモザイク病（仮称）	
栃木県	2014/08/28	ネギ	葉枯病	
長崎県	2014/09/02	キウイフルーツ	かいよう病（Psa 1 系統）	

注：太字は九州地方で発表されたものを示す

技術情報等（九州地方で発表されたもののみ）				
発信元	日付	作物	内容	
福岡県	2014/08/26	果樹	果樹カメムシ類の果樹園への飛来について	
鹿児島県	2014/08/26	果樹	果樹カメムシ類予察灯誘殺数について	
長崎県	2014/08/29	茶	炭疽病の防除対策について	
大分県	2014/09/01	イチゴ	炭疽病の防除対策について	
佐賀県	2014/09/04	果樹	果樹カメムシ類の発生状況と防除対策について	
熊本県	2014/09/05	水稲	トビイロウンカの発生状況について	
佐賀県	2014/09/05	イチゴ	炭疽病の防除対策について	
佐賀県	2014/09/05	水稲	紋枯病の発生状況と防除対策について	
鹿児島県	2014/09/06	イチゴ	炭疽病の防除対策について	
鹿児島県	2014/09/08	普通期水稲	トビイロウンカの発生状況について	
熊本県	2014/09/08	果樹	果樹カメムシ類新世代の発生状況について	
佐賀県	2014/09/11	水稲	トビイロウンカの防除の徹底について	
長崎県	2014/09/17	イチゴ	ハダニ類の防除対策について	
宮崎県	2014/09/18	果樹	果樹カメムシ類の発生状況と防除対策について	
佐賀県	2014/09/18	水稲	トビイロウンカ第三世代幼虫の防除の徹底について	

注：太字は佐賀県が発表したものを示す

7. 農薬の適正使用を徹底しましょう！

農薬を散布するときには、農薬の飛散に注意しましょう！

- 風向きに注意して風の弱いときに散布しましょう。
- 散布の位置や方向に注意して散布しましょう。
- 適正なノズルを用いて、適正な圧力で散布しましょう。



農家の皆さんへ

農薬の使用にあたっては、
以下のルールを必ず
守りましょう！



農薬は、登録農薬を適切に
使用しましょう！

登録農薬にはラベルに「農林水産省登録第〇〇号」と書いてありますので、使用する前に必ず確認し、ラベルに書いてある農薬の使用基準を必ず守りましょう。

農林水産省登録
第〇〇〇〇〇号

ラベルの内容

- 作物名(使用できる作物の種類はどれか)
- 使用濃度、希釈倍率または使用量
- 使用時期(いつ、又はいつまで使用できるのか)
- 総使用回数(何回まで使用できるのか)等



佐賀県・佐賀県植物防疫協会

(佐賀県植物防疫協会パンフレットより)